

5. 国際交流状況

①国際シンポジウム等の主催・参加状況

(1)主催状況

区 分	平成 28 年度		
主催件数	6		
主催した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数 (うち外国人数)
1	H28.7.20	帯広畜産大学テニユアトラック研究成果発表会	48 (17)
2	H28.8.21 ～8.24	第 24 回分子寄生虫学ワークショップ/ 第 14 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会	58 (1)
3	H28.11.20	上海獣医学研究所との共同研究セミナー	15 (13)
4	H29.2.20	The 2nd International Conference on the Control Measure of Neglected Tropical Diseases	35 (15)
5	H29.3.1	原虫病研究センター共同研究成果報告会	14 (4)
6	H29.3.7 ～3.8	国際獣疫対策に関する本邦招へいプログラム (JICA 事業)	58 (36)

(2)参加状況

区 分	平成 28 年度		
参加件数	12		
参加した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数
1	H28.7.17 ～7.19	2016 SSR Annual Meeting in San Diego	2
2	H28.9.11 ～9.12	プラズマ医療科学の合同海外ワークショップ	1
3	H28.12.7 ～12.9	Joint International Tropical Medicine Meeting 2016	1
4	H28.12.15 ～12.16	1st International Conference on Non Tsetse Transmitted Animal Trypanosomosis	1
5	H29.3.19 ～3.21	Molecular helminthology conference	1

②学術国際交流協定の状況

(1)部局間学術交流協定

協定総数	3						
締結年月	終了予定年月	相手国	機 関 名	協 定 名	分 野	受入人数	派遣人数
平成 20 年 11 月	平成 30 年 11 月	フィリピン	フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部	部局間学術交流協定	原虫病	1	7
平成 22 年 9 月	平成 32 年 9 月	中国	中国農業科学院上海獣医学研究所	部局間学術交流協定	原虫病	3	0
平成 23 年 9 月	平成 33 年 9 月	中国	延辺大学	部局間学術交流協定	原虫病	0	2
合 計						4	9

(2)合意覚書

協定総数	9						
締結年月	終了予定年月	相手国	機 関 名	協 定 名	分 野	受入人数	派遣人数
平成 26 年 5 月	平成 30 年 5 月	スリランカ	スリランカ獣医学研究所	合意覚書	原虫病	4	5
平成 26 年 5 月	平成 30 年 5 月	タイ	ラジャマンガラ大学獣医学部	合意覚書	原虫病	4	1
平成 27 年 10 月	平成 30 年 10 月	インドネシア	サムラトランギ大学	合意覚書	原虫病	3	2
平成 27 年 12 月	平成 32 年 12 月	ケニア	ナイロビ大学	合意覚書	原虫病	2	0
平成 27 年 12 月	平成 32 年 12 月	ウガンダ	マケレレ大学	合意覚書	原虫病	3	0
平成 28 年 3 月	平成 31 年 3 月	フィリピン	フィリピン大学・セブ校	合意覚書	原虫病	0	0
平成 28 年 6 月	平成 33 年 6 月	ブルキナファソ	ワガドゥーグー大学	合意覚書	原虫病	1	2
平成 29 年 2 月	平成 34 年 2 月	南アフリカ	ノースウエスト大学	合意覚書	原虫病	3	3
平成 29 年 2 月	平成 34 年 2 月	エジプト	マンスーラ大学	合意覚書	原虫病	0	0
合 計						20	13

③国際的な研究プロジェクトへの参加状況

総数	4		
参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
H25年から6年間	モンゴル・獣医学研究所	<p>プロジェクト名：AMED/JICA SATREPS モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発</p> <p>プロジェクト概要：トリパノソーマ病やピロプラズマ病等、多くの家畜原虫病は持続感染して慢性的に家畜の健康状態を悪化させる。国民の多くが畜産業に従事するモンゴルでは、特に深刻な問題となっている。本研究では、トリパノソーマ、ピロプラズマ野生株とそれらを媒介するマダニの分布マップ作成、原虫野生株の抗原遺伝子解析に基づく簡便で迅速な診断キットを開発、そして今後の感染対策に備えた研究資源の確保を目標としている。</p> <p>参加国：日本・モンゴル 予算見込み額・3億円</p>	井上 昇 横山 直明 五十嵐 慎 西川 義文 福本 晋也 加藤 健太郎 白藤 梨可 鈴木 宏志
H26年から4年間	<p>アフリカ諸国 ケニア・ナイロビ大学 ウガンダ・マケレレ大学 ブルキナファソ・公衆衛生研究所 南アフリカ・ノースウェスト大学</p>	<p>プロジェクト名：基盤B 海外学術・アフリカ大陸におけるマダニ媒介性動物原虫感染症の流行実態の解明と予防対策の確立</p> <p>アフリカ大陸は、世界中で飢餓人口が最も多い地域である。家畜の生産性の向上を図ることはこの地域における飢餓対策として重要な位置を占める。この地域における種々の感染症は、家畜の生産性向上を妨げる最も重要な要因の一つとされる。とりわけ、マダニ媒介性原虫感染症による被害は深刻とされ、その実態解明が喫緊の急務となっている。そこで本研究では、アフリカ大陸におけるマダニ媒介性動物原虫感染症の流行実態の解明と予防対策の確立を目指して企画した。具体的達成目標として、1) アフリカ諸国における広範囲な実地疫学調査の実施、2) 現地に適した簡易・迅速診断法の開発、3) 現地に適した予防対策の確立、4) 関連検疫機関への適切な助言の提供等を掲げている。</p> <p>参加国：日本・ケニア・ウガンダ・ブルキナファソ・南アフリカ 予算見込み額・1428万円</p>	鈴木 宏志 玄 学南 白藤 梨可

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
H26年から4年間	スリランカ・獣医学研究所 タイ・国立動物科学研究所 ベトナム・フエ大学/ フエ農林大学 フィリピン・ビサヤス州立大学	<p>プロジェクト名：科研費基盤 A（海外学術調査）・スリランカにおける牛ピロプラズマ症の制圧に向けた実践研究</p> <p>牛バベシア原虫（<i>Babesia bovis</i>）は、病原性の高い牛の赤血球内寄生性原虫である。MSA-1 などの <i>B. bovis</i> メロゾイト表面抗原（MSA）がコードする遺伝子の多型は、宿主動物における免疫の成立やその回避に重要な役割を果たすと考えられている。本研究では、アジアの msa-1 遺伝子型に対する伝子型特異的 PCR 法を確立し、スリランカ、モンゴル、ベトナムにおける msa-1 の遺伝的多型を再解析する。これらのデータに基づいて、牛ピロプラズマ症に対する有効な制圧方法を確立する。</p> <p>参加国：日本・スリランカ・タイ・ベトナム・フィリピン</p> <p>予算見込み額・4290 万円</p>	横山 直明 井上 昇
H28年から3年間	アジア、 アフリカ、 欧米諸国	<p>プロジェクト名：基盤 A 海外学術・ピロプラズマ病診断法の世界的規模のリングトライアルによる国際標準法の確立</p> <p>プロジェクト概要：ピロプラズマ病は、バベシアおよびタイレリアが宿主動物の赤血球に寄生して発熱、貧血、黄疸を引き起こし、世界的に家畜に大きな被害を与えている原虫症である。研究代表者らは、ピロプラズマ病に対する感度、特性、簡便性などに優れた血清診断法（ELISA, ICT）や遺伝子診断法（PCR, LAMP）を世界に先駆けて開発してきた。今回、海外の大学や研究所と連携してこれらの診断法の国際的な評価（リングトライアル）を行い、国際獣疫事務局（OIE）の標準法としての認定を目指す。更にこれらの情報を基盤に精度の高い国際的疫学データベースを構築し、ピロプラズマ病に対する日本の検疫体制の強化と国際的なピロプラズマ病対策の確立に貢献する事を目的とする。</p> <p>参加国：日本・タイ、モンゴル、インド、英国、カナダ、米国、メキシコ、アルゼンチン、南アフリカ</p> <p>予算見込み額・2740 万円</p>	五十嵐郁男 横山直明

④研究者の海外派遣状況・外国人研究者の招へい状況（延べ人数）

		平成 28 年度	
		派遣状況	招へい状況
事業区分	合計	54	50
	文部科学省事業	0	0
	日本学術振興会事業	24	7
	当該法人による事業	22	11
	その他の事業	8	32
派遣先国	①アジア	29	32
	②北米	8	0
	③中南米	2	3
	④ヨーロッパ	6	3
	⑤オセアニア	2	0
	⑥中東	0	2
	⑦アフリカ	7	15

⑤その他・国際研究協力活動の状況

事業名等	概要	受入人数	派遣人数
JICA 国別研修コース	平成 28 年度原虫病及び食品媒介感染症上級専門家育成コース	1	0
SATREPS	モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発	5	5
合計		6	5